

『私立才華学院』

私立才華学院

世界渴望の
最狂の鬼才を描く
新・運・載
36頁!!

魅惑ダークな
陵辱FUCK!!

危ノーマルな
墮落エロス♥
注目過去作は
電子書籍で!



資産家である
『綾小路家』によって
設立され

自由を奪い、刻む欲望...
徹底復讐の乗の取り姦!!

高潔な血筋には
高度な教育を—
という方針を基に

勉学やスポーツから
衣食住まで
全て高水準の物が
与えられている

国内外問わず
有名大学への
進学率も高く

さらに
その先の将来まで
約束された彼らは
互いに切磋琢磨し

健全な精神を
育む—

と...

突然
そんな...

花
第1話
徒花
presented by ちるた

— そう思っていた

決定事項
ですので

徒 あだ 花 ばな

第1話

穢れなき肉体は…
憎悪に穢される!!

本日限りで
この学院から
退去なさって
ください

ちよ…

ちよつと待つて
ください…っ

先日の
アレは…

言い訳
しても
無駄です

comic by ちろたた

先日の事件以外にも
余罪は複数
上がっていますので

綾小路 唯華^{ゆいか}

学院理事長の
一人娘であり
学院の生徒会長

学院の模範を
表したような
生徒で

家柄にはじめ
眉目秀麗
成績優秀に
スポーツ万能

学院生の
相談にものり
人望も厚いという

完璧な
お嬢様だ

用務員の俺が
関わりを
持とうなんて
思っていない…

だが

彼女を見てみると
俺も頑張らねばと
思えていたんだ

あの時までには

うわあっ

女子更衣室

いたた…

コ

出自のよくない
人間のやることは
下劣ね…っ

やはり…

だから
品格のない人間を
用務員に雇い続けるなど
反対だったのに

お父様は…

だから
話を…っ

近寄らないで
くださいっ

どうしたの？

あれ唯華様
じゃない？

うわっ
あのおっさん
今度は何
やらかしたんだ？

どーせSNSで
書いてあったこと
またしたんだろ

あれ投稿したの
お前っしょ

とにかく

あなたのような
人間は不要です

二度とこの学院に
近づかないでください

クズ

恨みはあるものの
直接復讐できないのは
我ながら情けないな…

はあ…

ここからに
するか…

き…
君は…

あつ
初めまして〜

うらべこのか
ト部 木乃香と
申します

でも
これで楽に…

あの〜
死んじゃうん
ですか？

屋上は危ないから
早く戻りなさい
…っ

このまま
死んじゃったら
無駄死になっ
てしまいますよ

理事長も
不祥事を隠
ぺいするで
しょうし

…っ
な…何を
言ってるん
だいな？

完全に
無駄死に
です♪

だって用務員さんが
死んじゃっても
みんな気に
しませんよ？
特に綾小路さんは…

逆に話のネタに
されたり
あることないこと
書かれるかも
しれませんね

じゃあ…っ

どうすれば
いいんだっ



俺だって頑張ってきたんだ…っ

事故の後遺症で会社を辞めて…

なんとかここに拾ってもらえて毎日休まず時間外でも仕事をしてきた…っ

それなのに…っ

底辺だの…見苦しいだの…陰口をたたいて…

あげくの果てにはやってもいない盗撮や盗難セクハラまででっちあげられて…っ

今回の件だってそうだ…っ

蛍光灯の交換作業中に蹴り飛ばされて

女子更衣室に倒れこんでしまったのぞきの現行犯だ…っ

このうわさのせいで

俺は…っ妻と子供とも…っ

離婚届

う…っ

そんなかわいそうな用務員さんには

くふふ…

こうなったらもう…っ

私特製の『幽体離脱のお札』あげちゃいますよ

このお札を使うと
あなたの身体は
死んでしましますが

幽体離脱…
魂だけの存在に
なれます

ゆーたーだう

つかうー！



4-3



ズググ

そしてその状態で
別の誰かに憑依すれば
その身体を
乗っ取ることが
できることよ

その後は
おぼろのあまのこ



全でこ

さあ
どうします？

ここで一人
寂しく死ぬか



この札を
使って

新しい人生を
過ごすか



復讐する
か…



…っ
どうせ
死ぬなら…

復讐して
やる…っっ

生徒会室

今日は助かったわ

ありがとうございます
久世君

そんなっ

僕は会長の
お役に立てれば
それで...

ふふ
本当に貴方のような
男性が増えれば
いいのだけど

それでは
会長

お先に
失礼しますっ

ええ
お疲れさま

クッ
クッ
クッ

ふう...いろいろ
手を回した
かいもあって

ようやく
あの用務員を
クビにできたわね

お父様は
何か理由があつて
雇つたみたいだけど

生徒

あんな
汚らわしい男...
学院の品位を
下げるし

いつか犯罪を
起こしていたわ

...好き勝手
言いやがつて...

うん

そんなに
家柄だの品位が
大事なら…っ

お前の「身体」で
ぶち壊してやる
っっ!!

な…っ

これが
憑依…っ

何っ!?

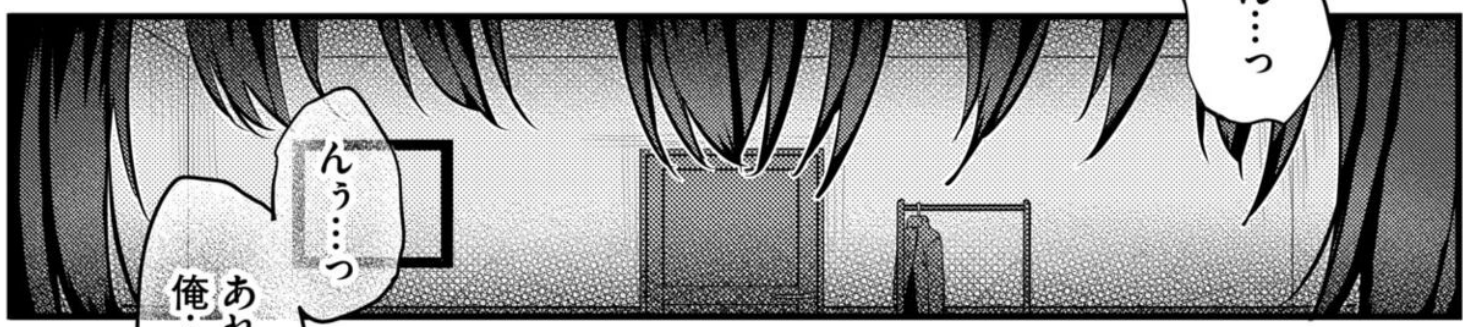
これっ

たすけ…っ





ん…っ



んう…っ

あれ…
俺…



た

い

ん

!!



鏡…っ



鏡…っ

おっ…っ



す…
すじい…
本当に…



は…っ

あ…っ

「綾小路」に
なってる…っ

これが女性…の
身体…っ

それに

この胸…っ

頭は髪で
重いし

復讐しに
来たんだ…っ

おっ

しゅん

そうだ…

俺は
ここに

おお…

服の中に

こんなの
隠していたのか…っ

たあ

おっ

たあ

おっ

も

おっ

おっ

おっ



すっく

強く握っただけで
頭ジリジリって
…っ

あれ…私…
って私
何してるのっ…!

ふへ…っ
目覚めたか

お前の身体…
乗っ取らせろ…っ
もろっただぞ

乗っ取りっつて
そんなのあるはずが…っ

…あなたは誰っ?
こんなことが
許されると…

うるさいっ
これは
復讐だっ

おっ

んっ

んっ
んっ
んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ
んっ
んっ

復讐…っ
あなたまさか
用務員のっ

さあね誰でも
いいだろっ？

お前の身体で

お前の大好きな
品格や家柄…

全てぶち壊して
やるんだからなあ
…っ♡♡

俺は…っ

おんん

…っやはり解雇して
正解だったわっ
早く私の身体を
返じなさい…っ

あなたのような
下種が使つていい
身体じゃないのよっ

何言ってるん
だめっ…っ♡

しっしっ

っ…っ

っ…っ

っ…っ



触っただけで
小便漏らしたみたいだ
愛液だらだらだよっ

隠れて
オナニーでも
してたんだったっ

そんな
汚らわしい行為…っ
するわけない
じゃない…っ

じゃあ
この身体は元から
淫乱なメスボディ
ってことだなあ…っ



そんなはずないっ
これはあなたが…っ

これ
いい…っ
あくやべっっ
なんかうる
…っっ

綾小路
今週の会議に
ついてだが…

オナニー見られるなんて
死にたくなるくらいのも
恥だが

こいつの痴態を
見せつけられたと思うと
興奮するよなあ
……♡♡

綾小路……

ついでにこいつ
生徒会顧問の
氷室じゃねえかつ!!

すまない……

見るつもりでは
なかったんだ……

はあ……

はあ……

こいつのせいで
俺は……

ここの蛍光灯の
修理を頼む

では少し
見てみますね

あれで女子更衣室に
倒れこんでしまったことで
のぞきの現行犯

直接的な
解雇理由となった

えっ——

あのお

どこにも
異常はないよう
ですが……

やはりこの学園に
お前のような
貧乏人は不要だ

それなら

『氷室先生に
襲われた』と

父に報告しますが
よろしいですね？

理事長に絶対
頭が上がらないから
断れないよなあ…？

それは
…っ

ねえ…
先生？

『名家である
綾小路家の一人娘』
とのセックスですよ？

悪い話ではないと
思いますが？

なんで
こんなこと…

いつもの
君らしくない
じゃないか…

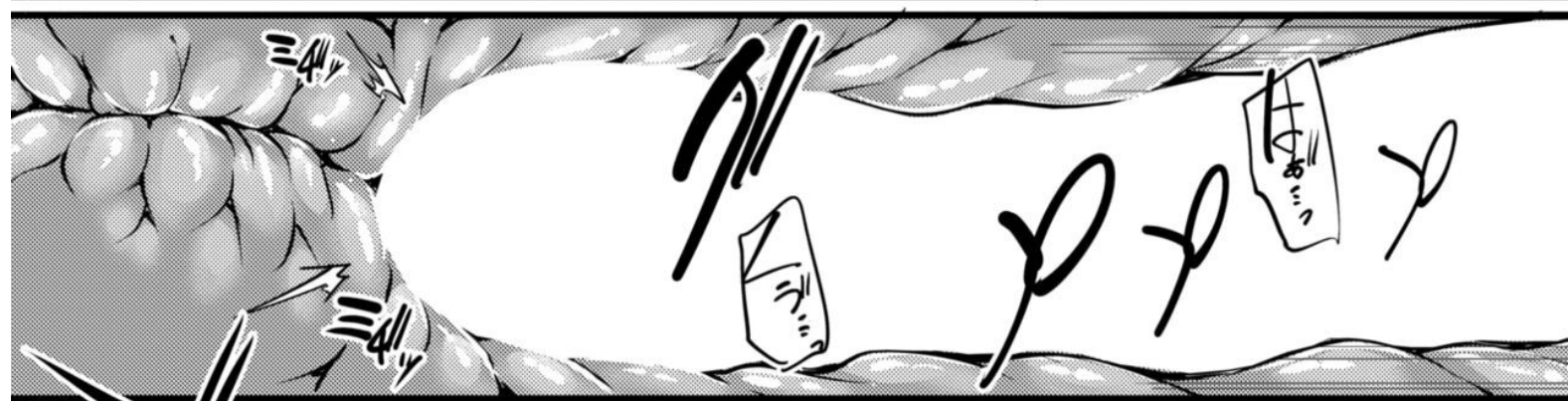
ふふ…

実は私
先生のこと…
好き…だったん
です…

そんなわけ
ねーけどなあ…っ

だから…
ね…？

いい
でじゅん？



綾小路

大丈夫か？

はい…
先生の
好きに動い
てくださ

これが：
女のセックス…♡
腹の中から熱い疼きが
全身に回るみたいだ…♡

何してるのっ？
早く抜きなれっ！

なんで…っ！
私の処女が
こんなふう…っ

そんなこと言っても
お前の身体
ちんぽに反応して
どんどん気持ちよ
なってるぞ

先生お上手
です…♡

うんっ
うんっ

おっ

はっ

あっ
あっ

あっ
んっ

アッ
アッ

アッ
アッ

アッ
アッ

これが
男性の…

先生の
くましい
クソ汚ねえおちんぼ
なのですね…♡

綾小路…っ

今は…
ダメです…♡

ファーストキスは
もっと雰囲気
大事に
したいんです…

分かって
くれます
よね…？

あ…
あ…

そうだな
…っ

その
代わり…

もっと激しく

愛して

ください…♡

ふざけないでっ
なんでこんな男と…っ
なんで身体が
動かせないのっ

唯華あつ

なか
腔内激しく
されてるのに
どんだん愛液
あふれてくる……♡♡♡

やあ……何これ
知らないいつ♡

この身体……♡
やつぱり淫乱な……♡
メスじゃねえかあ……♡♡♡

おはあ



この体勢だと
ホントにメス犬
みたいだなあつ

唯華のーカップ
おっぱい

先生♡
もつとお…♡

復讐のためなら
なんだってしてやる…♡

フルンフルン
っくわ…っくわ♡

私の回で
卑猥な言葉を
発さないでっ

もつとえつちな唯華の
トスケへおま○こ
ジコボジコボしてえ
…っ♡♡





頭下ぶまじ
ミッやるよじ

そんなに
欲しいなら



なか
腔内に刺激があ
…っ♡♡



身体…っ
動かせない分…



ほら言へ
唯華…

唯華…

身体だつて
どんどん気持すいん
なってるじやあつ

先生…っ

もつとお
っ♡

んんん

おま○っ
もつと欲しいのお♡

先生の…っ

奥まで
きてるっっ

あ

嫌あつ
汚らわしいっ
早く抜いてっ

んんん
あ
あ
あ

しゃんごの...♡♡♡♡♡

まだきちやう...♡♡♡♡♡

メス犬ま〇こに俺の
有能精子ぶち込んで
やるからなっ

やめてっ
薄汚い精子なんて
嫌だっ

あなたに
人の情はないの!?

人の身体を
弄んで...っ

嫌...っ嫌っ
いやああああっ

射精すぞ
唯華っ



きゃあああああ
あああああああ

どうしたんだ!!

…っ
氷室先生が

氷室先生が
会長をつ

氷室先生っ
何しているんだ
あなたはっ

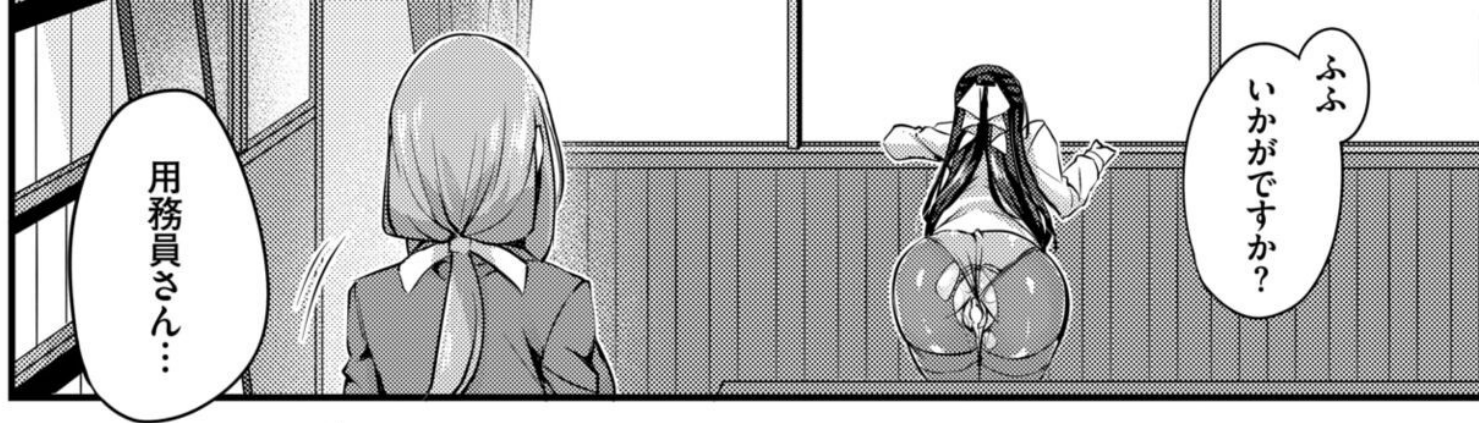
ちっ違っっ
これは

唯華から
誘ってきた

ト部

綾小路を
頼めるか

はっはい
お任せください



用務員さん…

いかがですか？

ふふ



これで…誰にも
怪しまれない…

ああ…君の
言ったとおり
絶頂^{イッ}たら記憶が
読めるように
なったよ



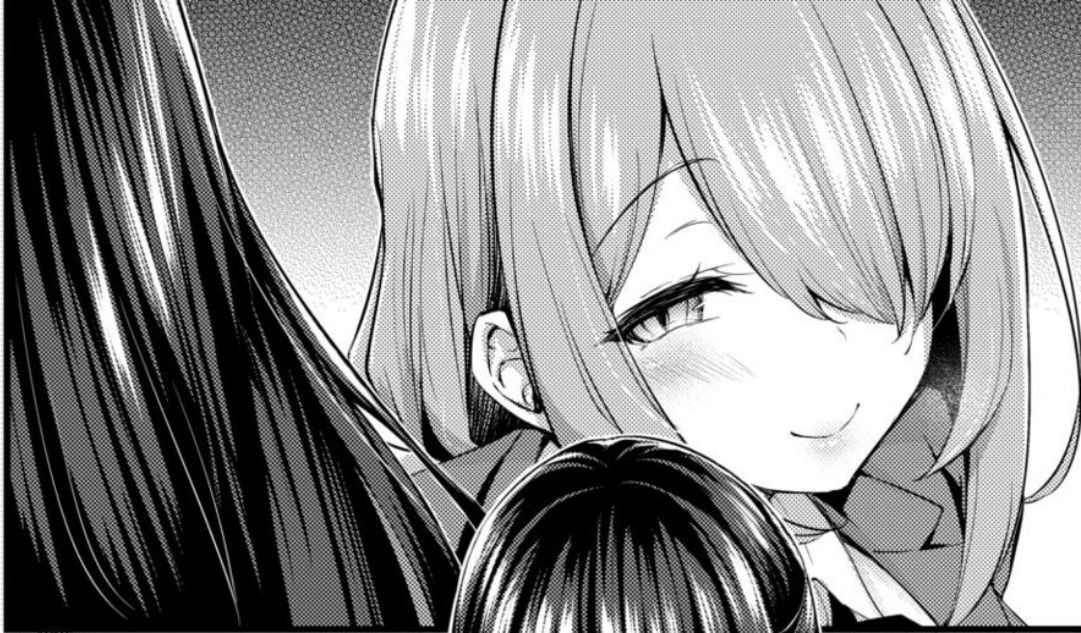
それに…



俺の人生を狂わせた
あの事故…

お嬢様っ
早くこちらへ

唯華！
そんなモノを
見るんじゃない！



復讐は



これからだ
…っ

力を手にし狂いだす…
怨嗟の先に待つのは!?